



京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み

飯田, 智子 ; 石黒, 康太 ; 菊谷, 智史 ; 坂田, 絵理子 ; 田中, 志瑞子 ; 西川, 真樹子

(Citation)

図書館雑誌, 118(11):654-656

(Issue Date)

2024-11

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100492560>



特集◎シン・デジタル・ライブラリー—オープンサイエンス時代の大学図書館

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の
連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み

飯田智子・石黒康太・菊谷智史・坂田絵理子・田中志瑞子・西川真樹子

はじめに 京阪神3大学附属図書館の協定

京都大学、大阪大学及び神戸大学は、近畿地区の中では国立の大規模研究大学として「京大阪大神大」とセットで言及されることが多い。図書館においても、事務部長を筆頭とした組織構成が似ており、職員はお互いに「隣の大学でも同じような規模で業務をし、似たことで悩んでいそうだな」と意識しつつも、これまで特に積極的な交流は行ってこなかった。それが一転したきっかけは、2023年1月に公表された「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）」（文部科学省 科学技術・学術審議会 情報委員会 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会）¹⁾である。ここで示された新たな大学図書館機能の実現に向けた大学図書館間の効果的な連携をこの京阪神3大学で実践してみることにになり、2023年6月に京阪神3大学附属図書館の連携・協力活動に係る協定が結ばれた。活動は当初、電子ジャーナル契約やデジタルアーカイブ、機関リポジトリ等、実務担当者間でのゆるやかな交流・協働からスタートした。その後、これらの連携活動に理論的土台を与えることを目的として、検討されることになったのが京阪神3大学版ライブラリー・スキーマである。

ライブラリー・スキーマ検討WGの結成

ライブラリー・スキーマとは「審議のまとめ」の中で、「様々な利用者に適した図書館のサービスをデザインするために必要な、自らの存在を規定する基本的な論理構造」と説明される。ここではライブラリー・スキーマの定義やライブラリー・スキーマをめぐる議論について詳述しないが、第70回国立大学図書館協会総会研究集会²⁾でも話題提供として取り上げられ、ライブラリー・スキーマへの関心が高まってきていた。

協定を結んで以来、京阪神3大学附属図書館は主にシステム・管理系業務での現場レベルでの交流を行っていたが、デジタル・ライブラリー実現のため「学術情報資源の確保」「学術情報資源の創出」「研究成果発信の支援」の理論的土台³⁾を京阪神3大学附属図書館共同で考えてみては、という部長連のツルのひと声で京阪神3大学版ライブラリー・スキーマの検討に足を踏み入れたのである。

ライブラリー・スキーマ検討にあたり結成されたワーキンググループ（以下、WG）は、京阪神3大学図書館に所属する有志の常勤職員計12名（若手～中堅職員による実働隊、議論の整理やWG外との調整を担う課長、議論の見守り役としての部長）で構成された。なお、このWGには管理系・サービス系両方から図書館職員が参画している。メンバー間のコミュニケーションにはSlackやZoom、Google Driveといったオンラインツールを用いた。

2023年9月に顔合わせを行い、10月初旬に各メンバーのライブラリー・スキーマ私案を披露した。その後実働隊と課長たちによる議論の中で、図と文章による解説のセットでライブラリー・スキーマを表現するという方針がまとまり、同月中に各大学でたたき台を作成し、そこから京阪神3大学としての案を完成した。当初の想定では、この京阪神3大学案に各館職員からのコメントを反映させて、年内には最終版を確定させることになっていた。ところが後述の事情によって議論が一旦白紙に戻り、再検討の結果、2024年3月に最終版「京阪神3大学図書館ライブラリー・スキーマ」の完成をみたのであった。

初代ライブラリー・スキーマとその挫折

再検討に至る前の初代ライブラリー・スキーマは、以下の図と解説で構成されていた。

1. 大学図書館の根本は、「学術情報を収集してメ

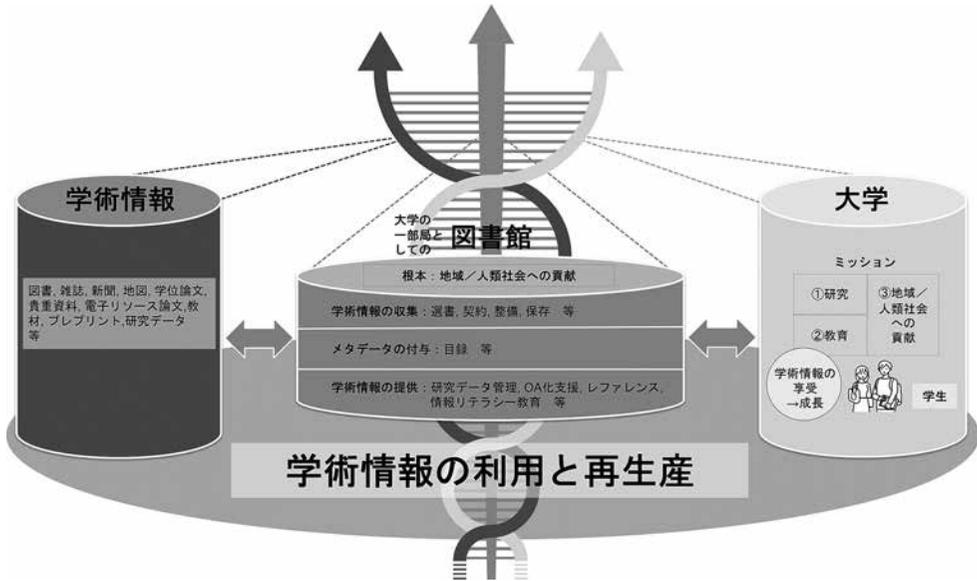


図1. 初代ライブラリー・スキーマ

「データを付与したものを利用者に提供する」ことにある。現在、「収集」は必ずしも“所蔵”を意味しないが、情報をいつでも引き出せるよう整備するという点に変わりはない。

2. 大学のミッションは、研究・教育活動を展開し、地域社会・人類社会に貢献することにある。
3. 利用者に学術情報へのアクセスを保証し、学術情報の再生産を下支えすることで研究・教育・学修活動を促進することが、京大・阪大・神大の大学図書館のミッションと考える。
4. 大学図書館は、時代や利用者のニーズに応じて、柔軟に姿を変え、大学と学術情報との橋渡しを行いながら共に発展していく。ニーズに応じて、大学図書館が学術情報を提供する方法は変わるが、その根本は変わらない。

しかし、この図と解説を京阪神3大学の部長に提案したところ、「これは大学図書館の根本ではなく、業務分析でしかない」「新しいことが想起できない」と指摘され、再検討することになった。

2代目ライブラリー・スキーマと今後の展望

議論が仕切り直しとなり、大学図書館の「本質」をより深く掘り下げる必要があるという認識のもと、京阪神3大学附属図書館を設置している「研究大学」の本質から再考することになった。検討の過程で浮かび上がってきたのは、「本質」や「根本」とは何を指すかという問いである。その問

いに答えるためには、「現在行っている業務が何のために行われているのか」「2030年時点ではどうなっているのか」「そこに一貫性はあるのか」を考える必要があった。WGでの検討を通して出てきたメンバーの意見のなかには、「出来上がったライブラリー・スキーマが各自の業務を見つめ直すきっかけになってほしい」「図書館員を勇気づけるもの、大学図書館のプレゼンスをあげられるものでなければならない」というものもあった。

これらの検討を通して浮かび上がった大学の「本質的機能」を出発点とし、対応する大学図書館の「本質的機能」とそれを現在の文脈において具体化した「役割」を導き出した。現状のサービスの整理や今後取り組むべきサービスの検討に役立てられるように、表形式で整理し、縦軸に「本質的機能」と「役割」を置き、横軸には研究者や学生等の利用者のニーズの例示を置いた。利用者のニーズと大学図書館の「本質的機能」「役割」とを突き合わせ、両者が交差する点に具体的な業務や設備を書き込んでいくことを想定している。

完成後に各大学でパブリックコメントを募集し、「研究大学に力点を置いたのがよくわかる内容になっている」や「本質を意識するあまり京阪神3大学図書館の個性が薄い」といった感想や意見が寄せられた。次の段階として、各大学で表を埋めたものを作成し、デジタル・ライブラリー実現の拠り所として活用することが期待される。なお、

京阪神3大学図書館 ライブラリー・スキーマ

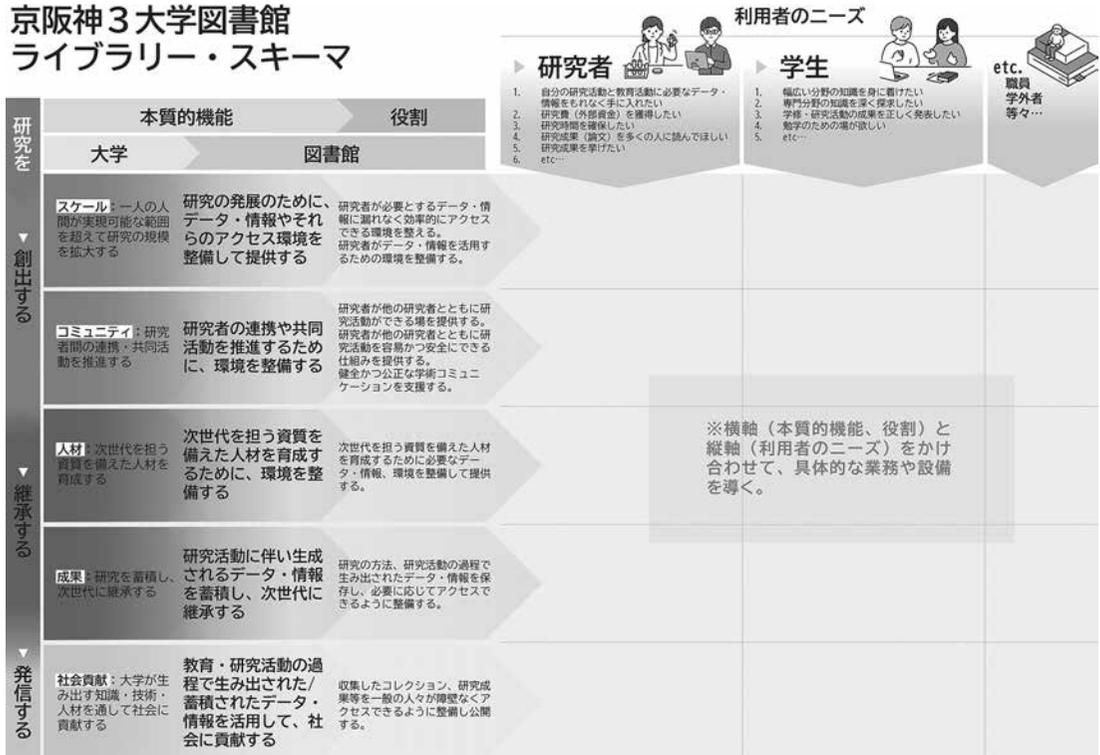


図2. 2代目ライブラリー・スキーマ

今後の大学図書館の役割や利用者のニーズの変化等に応じて改訂していくことも想定している。

おわりに

以上、3大学12名でライブラリー・スキーマを検討したが、検討のプロセスは「大学図書館とは何か」「図書館の役割とは何か」といった哲学的な問いについて思いを巡らすことのできる贅沢な時間であった。他には代え難い自省の機会でもあるが、大学図書館職員の多くは日々の業務に忙殺されていて、自発的にライブラリー・スキーマを検討する必要性を見いだせない。しかしながら、今後、さまざまな機関、コミュニティでライブラリー・スキーマを検討し、披露され、それが日々の業務やこれからの大学図書館を照らし出すものであれば、ライブラリー・スキーマを巡る議論はさらに活発化することになるであろう。ライブラリー・スキーマの意義はまさにその検討プロセスの中にあるのだ。

参考文献

・ 国立大学図書館協会, 「オープンサイエンス時代における

<場>としての大学図書館：事例から見るライブラリー・スキーマ」2024.1.26

<https://www.janul.jp/ja/operations/symposia/2023/symp2023-2>

・ 京都大学附属図書館, 大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/mainlib/keihanshindl/index.html>

注

1) 文部科学省, オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ) 2023.1.25

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/004/mext_00001.html

2) 国立大学図書館協会, 第70回総会研究集会記録 2023.6.23

https://www.janul.jp/ja/operations/research_meeting_minutes

3) 杉田茂樹, 「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会(第2回) 2023.10.19

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/071/siryo/mext_00002.html

(いいだ ともこ: 京都大学附属図書館, いしぐろ こうた: 神戸大学附属図書館, きくたに さとし: 大阪大学附属図書館, さかた えりこ: 大阪大学附属図書館, たなか しずこ: 神戸大学附属図書館, にしかわ まきこ:

京都大学附属図書館)

[NDC10: 017.7 BSH: 1. 大学図書館 2. 図書館協力]